

本阿弥光悦の文字データベース 作成へ向けて

GCOEセミナー
2012年1月24日

日本文化研究班
高橋伸城

本阿弥光悦(1558-1637)

- 桃山から江戸初期にかけて活躍した書家。陶器や漆器の制作などにも関わる。



《鶴下絵和歌巻》
17世紀

これまでの光悦研究の問題点

- 仮名を使った和歌作品中心の研究。その背後にあってなかなか注目されてこなかった漢文作品群。
- 「光悦」方印の問題。数多くの伝光悦作品が生まれることに。
- 能書家「光悦」の中が独り歩きし、実証的な研究が遅れる。

光悦と角倉素庵の筆跡の混合



素庵《古今集和歌色紙》
17世紀

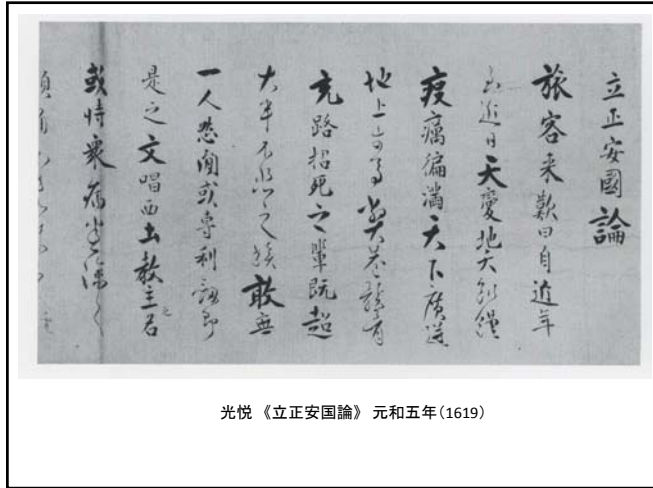
これから必要になってくる視点

- 光悦筆と疑いない作品を基準にしての研究。
- これまで十分に研究されてこなかった漢文作品の検証。
- 詳細な文字の分析、比較。

→本阿弥光悦の文字データベースを作ることにより、これらの研究がしやすくなるのではないかと。

光悦の文字データベース

- どのような作品を基準とするか。
【漢文】:《立正安国論》《始聞仏乗義》《如説修行抄》《法華題目抄》《観心本尊得意抄》
【和歌】:《日蓮聖人御歌》《鹿下絵新古今集和歌巻》
【その他】:300通に渡る消息
- 以上の作品を画像として取り込み、文字を切り出していく。



必要なメタデータ

- 管理番号
- 文字表記
- 読み(漢字のみ)
- 原典作品
- 作品上での位置情報

→検索項目として制作年や所蔵機関を加えるか。

予期される研究成果

- 光悦文字の基準を構築する。
- 伝光悦作品との比較、また真贋の判断。
- 素庵の筆跡との比較。光悦の作品と素庵の作品の区別。
- 他の書家への応用。また書家間の文字の比較や分析。

光悦の文字の特徴

《立正安国論》
 《始聞仏乘義》
 より「之」

光悦の文字の特徴(2)

伝光悦作品との比較

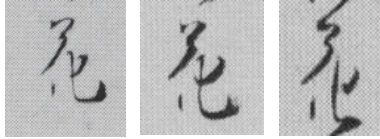
《鶴下絵和歌巻》より「我」

《立正安国論》《始聞仏乘義》より「我」

素庵の筆跡との比較



素庵 《古今集和歌色紙》より「花」



光悦 《立正安国論》《始聞仏乘義》より「花」

様々な書家の文字データベース

- 書家はどのようなものを手本として自身の書体を確立したのか。
- 光悦様: 小野道風、空海、張即之...
- 書道史や美術史の分野で「影響」として表現されてきたものが、より具体的になるのでは。

これからの課題

- 光悦の文字データベースを、起動可能なものとして整備する。
- 文字を切り取ることの有用性と限界。書家はある作品を書写するとき、一つ一つの文字を一連の流れの中で書いている。その文脈をどう復元するか。